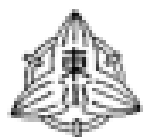


令和6年度
「笹っ子COCOLOプラン」
～不登校の焦点化～





戸田市立笹目東小学校令和5年度学校経営方針

1 学校の教育目標

(1) 深く考え、行動する子ども

◇自ら課題を見だし、深く考え、仲間と共に学びを生活に生かす。

(2) 進んで働く子ども

◇目標に向かい、自分役割を自覚し、進んで仲間のために働き、責任をはたす。

(3) 健康でたくましい子ども

◇心身ともに健康で、根気強く課題に取り組むことのできる気力・体力を培う。

(4) 思いやりのある子ども

◇様々なコミュニケーションの手段を効果的に活用し、相手の気持ちを理解して協力し、助け合う。

2 学校経営方針

「子供も教師も元気な学校」～にこにこ、きびきび、わくわく（NKW）～

(1) 児童にとって通いたくなる学校づくり

「笑顔」

(2) 保護者・地域の方が協力したくなる学校づくり

「信頼」

(3) 教職員が働きがいのある学校づくり

「誇り」

「笹っ子 十の約束」

- 一 **にこにこ** 元気にあいさつします
- 二 はっきりと返事をします
- 三 整理整頓・後しまつをしっかりします
- 四 時間を守り、**きびきび**とした行動をします
- 五 そうじは、しゃべらずもくもくとします
- 六 授業中はしせいをよくします
- 七 くつはきちんとそろえます
- 八 ろう下や階段は静かに歩きます
- 九 先生の話には集中します
- 十 何事にも意欲的に**わくわく**取り組みます

そして、やるべきこと、やってはいけないことをよく考えて行動します。

「笹っ子 十の約束」

◇一つ一つの約束は、協調性、思いやり、自制心、勤勉性などの非認知能力を育てます。子供たちが将来、実社会に出た時に必要となる力

◇（10）の「そして、やるべきこと、やってはいけないことをよく考えて、やりたいことを実現しよう。」は、いじめの撲滅、問題行動の抑止など、デジタルシティズンシップにつながる。

◇各御家庭や地域社会に、同一步調で子どもの育成にあたり「いつでも、どこでも、だれからも」 同じことを言われる環境づくりへの協力

笹目東小キャッチフレーズ

「 にこにこ・きびきび・わくわく 」

「**にこにこ**」 いつも明るく元気なあいさつを。「あいさつのあは？明るく、いは？いつも、さは？先に、つは？続ける」

「**きびきび**」 きびきびと行動し、時間を守って生活する。

「**わくわく**」 わくわくと、何事にも意欲的に取り組む。PBL型の学習では、自分で取り組みたい課題を見つけて、クラスのみんなで課題を解決する。「おもしろそう」「やりがいがありそう」「やればできそう」ということなら危険なことや、人が悲しむこと、お金がかかり過ぎることの3つを除けば、どんなことを課題にしてもかまわない。

予 防

兆候が見られる
児童生徒のみを対象

早期発見
早期対応

初期対応

全ての児童生徒を
対象

早期発見の前段階

治療的予防

教育的予防

未然防止

参照：「生徒指導リーフ/Leaf 5『「教育的予防」と「治療的予防」』（H24.2）」
国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策

「COCOLOプラン」(文部科学省R5.3.31)

- 1 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、
学びたいと思った時に学べる環境を整える
- 2 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で
支援する
- 3 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

「COCOLOプラン」

1 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える(層4)

層4

困難課題対応的生徒指導

兆候が見られる児童生徒を対象

継続的

層3

課題早期発見対応

2 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する(層3)

課題予防的生徒指導

層2

課題未然防止教育

時間軸

3 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする(層1・2)

層1

発達支持的生徒指導

先行的
常態的
(プロアクティブ)

児童生徒が自ら発達するのを、教師が支える

全ての児童生徒を対象

全ての児童生徒

不登校解消の手立て

誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策 「笹っ子 COCOLOプラン」



～友達がいる。給食がおいしい。授業がたのしい。先生がやさしい。～
この4つの「子どもの実感」を合い言葉に！

(1) いじめの根絶

- ①いじめ防止基本方針に基づく教育活動の展開（未然防止・早期発見・対応・解決）
- ②確実ないじめ認知報告の確実な実施（記憶より記録、いじめと感じた子供の立場で）
- ③いじめ問題等対策委員会・校内委員会・学校教育相談体制の充実
- ④毎月のいじめアンケートの実施とその対策の迅速な実施
- ⑤道徳教育の充実による豊かな心の育成（道徳科による考え、議論する道徳）

(2) 家庭・地域社会との連携

- ①戸田市P連家庭教育宣言動との連携
- ②SSWを活用した笹目中学校・幼稚園・保育園との連携・協働
- ③b & g・コミュニティ・スクール・民生児童委員連絡協議会・学校応援団・プリムローズ・コンパルとの連携・協働
- ④地域で学び地域を学ぶ地域学習の充実

(3) 特別活動の充実による望ましい集団の育成

- ①安心して生活できる支持的風土のある学級（学級経営の充実）
- ②児童会活動等の活性化（委員会活動、クラブ活動、児童集会等）
- ③学校行事等（音楽朝会含む）の厳選・重点化と充実
- ④ボランティア教育・福祉教育の推進（ボランティア活動の実践）

不登校解消の手立て

誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策 「笹っ子 COCOLOプラン」



～友達がいる。給食がおいしい。授業がたのしい。先生がやさしい。～
この4つの「子どもの実感」を合い言葉に！

（４）カラフル教育の推進

- ①多様性を尊重し、柔軟な対応により一人一人を大切にした教育の推進
- ②人権感覚育成プログラムを活用した人権教育の充実
- ③いじめ防止基本方針に基づく教育活動の展開
- ④障害に対する正しい理解を深め、自立を援助する教育活動の推進

（５）さくらんぼ学級（特別支援学級）と交流学習（交流及び共同学習）の充実

- ①一人一人の障害の状態等に対する教育的ニーズに対応してきめ細かな指導
- ②特別支援学級への理解を進める啓発活動（児童、保護者、地域社会）
- ③さくらんぼ学級も通常学級も互いに尊重しあえる交流学習

（６）特別支援教育の視点に立った授業の推進（授業のユニバーサルデザイン化）

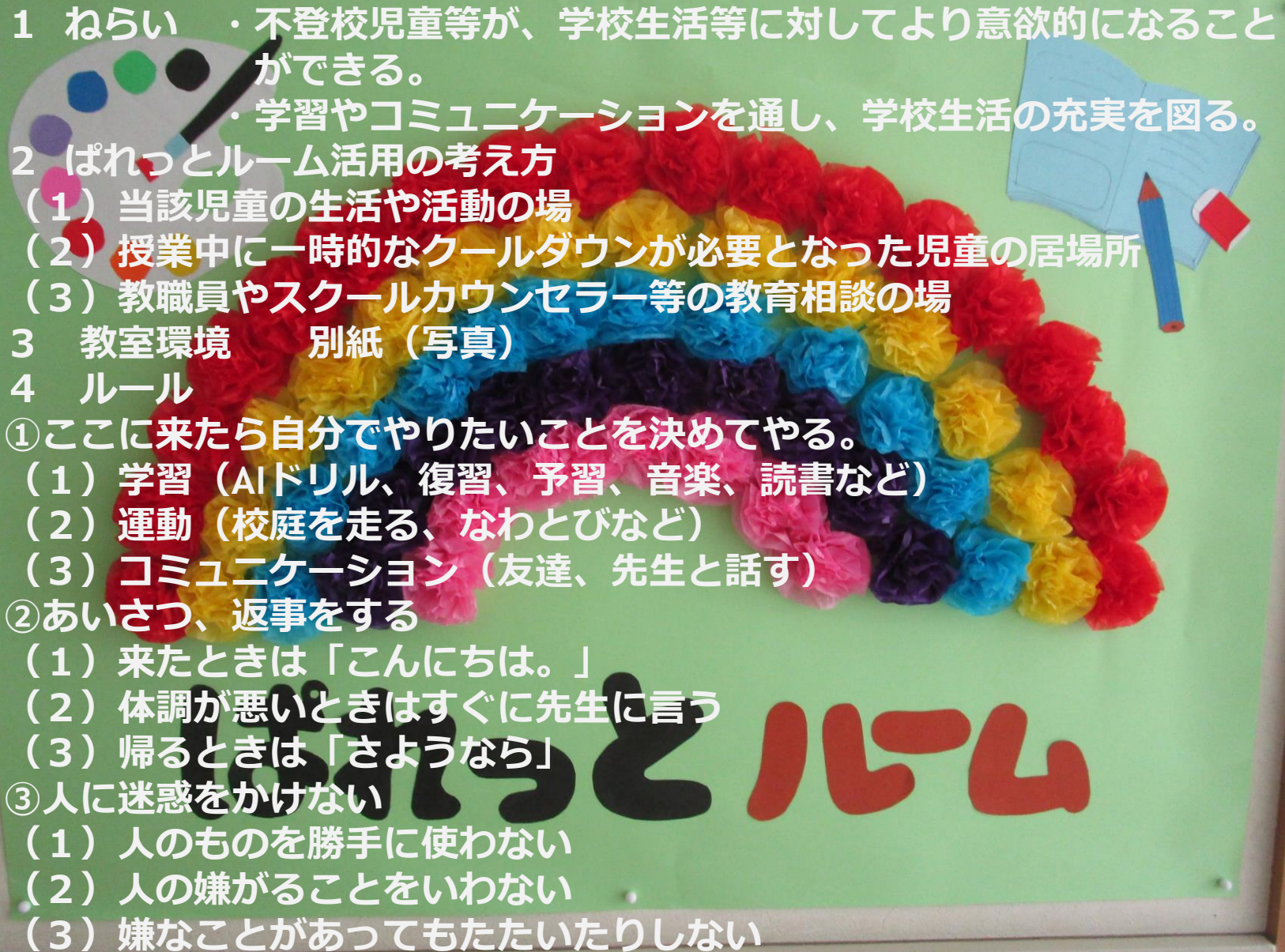
- ①「すっきり」「はっきり」「みえる化」「つながり」「学び合い」のある授業
- ②適切な集団への指示と適切な個別対応の充実（ICT活用）
- ③発問・説明・指示の簡潔化と教室環境の整備（前面すっきり、整理整頓）

（７）就学相談、就学支援体制の充実

- ①特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育・就学相談体制の充実
- ②配慮を要する児童の把握と共通理解及び早期からの保護者との教育相談、就学相談
- ③未来を担う、とだっ子が**誰一人取り残されないための新たな居場所であるパレット**

ルームの活用

ぱれっとルームについて（児童・保護者向け）

- 
- 1 ねらい
 - ・不登校児童等が、学校生活等に対してより意欲的になることができる。
 - ・学習やコミュニケーションを通し、学校生活の充実を図る。
 - 2 ぱれっとルーム活用の考え方
 - (1) 当該児童の生活や活動の場
 - (2) 授業中に一時的なクールダウンが必要となった児童の居場所
 - (3) 教職員やスクールカウンセラー等の教育相談の場
 - 3 教室環境 別紙（写真）
 - 4 ルール
 - ①ここに来たら自分でやりたいことを決めてやる。
 - (1) 学習（AIドリル、復習、予習、音楽、読書など）
 - (2) 運動（校庭を走る、なわとびなど）
 - (3) コミュニケーション（友達、先生と話す）
 - ②あいさつ、返事をする
 - (1) 来たときは「こんにちは。」
 - (2) 体調が悪いときはすぐに先生に言う
 - (3) 帰るときは「さようなら」
 - ③人に迷惑をかけない
 - (1) 人のものを勝手に使わない
 - (2) 人の嫌がることをいわない
 - (3) 嫌なことがあってもたたいたりしない

ぱれっとルーム活用ガイドライン

1. 校内サポート「ぱれっとルーム」設置の意義

不登校対策（戸田型オルタナティブ・プラン）として、学習上、不安や困難さを感じている児童や不登校傾向の児童への早期対応及び支援を図るために設置されています。

2. ぱれっとルームの活用について

①不登校児童の生活や活動の場

②クールダウンが必要となった児童の居場所

一人一人に合った生活の仕方を子供自身と保護者の方と考え、相談をしながら居場所づくりをしていきます。



ぱれっとルームのルール
は子供たちの実態や、保護者、教師の願いから作ります。子供たちが安心して過ごせる場づくりをチーム笹目東で作り上げていきましょう。

ぱれっとルーム
は出席扱いで
す。

保護者がぱれっとルーム
利用を望んでいる場合も
利用できます。

ぱれっとルームに行かせる際は、
「いつ」「何時まで」「どんなこと
をしに」などの約束事をしてくだ
さい。